



analytica 2016
MAY 10-13 | MESSE MÜNCHEN



Messe München

ファイナルレポート

第 25 回 国際ラボテクノロジー・分析技術・バイオテクノロジー専門見本市・会議

2016 年 5 月 10 日～5 月 13 日

ドイツ・ミュンヘン見本市会場

2016 年 5 月 13 日

analytica 2016: 業界で最も重要な国際見本市

Summary

- 複数のワールドプレミアが来場者を魅了
- 出展社数が 6.5% 増え記録を更新
- analytica Conference の参加者数も増加



Facts & Data

会 期	2016 年 5 月 10 日 (火)～13 日 (金) 午前 9 時～午後 6 時 (最終日のみ午後 5 時まで)
会 場	ドイツ・ミュンヘン見本市会場
主 催	メッセ・ミュンヘン (Messe München GmbH)
規 模	全 5 ホール 約 55,000 m ²
出 展 企 業	40 ヶ国から 1,244 社 (2014 年: 40 ヶ国から 1,166 社)
来 場 者 総 数	約 35,000 人 (2014 年: 35,384 人)
専 門 分 野	ラボテクノロジー、分析技術、品質管理、バイオテクノロジー・ライフサイエンス・診断技術
主 な 出 展 品	アプリケーション、分析・診断機器・処理・技術、検査・測定・品質管理、情報・サービス、ラボ装置、試薬・化学製品、バイオテクノロジー公衆衛生関連技術、スタートアップフォーラム (技術交流、各種コンサルティングほか)
出展日本企業 (現地法人・代理店出展含む)	(株)アルバック、(株)エアーテック、(株)エス・テイ・ジャパン、(株)荏原製作所、オリンパス(株)、(株)キーエンス、京都電子工業(株)、協和界面科学(株)、久保田商事(株)、コニカミノルタセンシング(株)、コフロック(株)、ジーエルサイエンス(株)、(株)島津製作所、(株)写真化学、ジャスコインタナショナル(株)、昭和電工(株)、新光電子(株)、(株)ソニー-DADC、高砂電気工業(株)、東ソー(株)、ナカライテスク(株)、(株)ニコン、日本ジェネティクス(株)、日本電子(株)、日本トムソン(株)、社団法人日本分析機器工業会、(株)ハイロックス、(株)バイオクロマト、浜松ホトニクス(株)、パルステック工業(株)、日立工機(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ、(株)平山製作所、深江化成(株)、ホソカワミクロン(株)、(株)堀場製作所、(株)マイクロサポート、マイクロトラック・ベル(株)、ヤマト科学(株)、(株)リガク、(株)ワイエムシイ (50 音順)
専 用 U R L	www.analytica.de (英語 / ドイツ語)



5月10日～13日の4日間、40か国から集まった1,244社の出展社が、約35,000人のanalytica来場者に向け、数々のワールドプレミアを含む製品イノベーションを紹介した。今回は、ドイツ国外からの出展社と来場者の割合に、かなりの増加がみられた。結果として、analyticaは、ラボテクノロジー・分析機器・バイオテクノロジーのための世界で最も重要な見本市としての主導的地位を維持している。

メッセ・ミュンヘン副CEOのDr.ラインハルト・ファイファーは、同見本市の結果をこのようにまとめた。「いくつかのワールドプレミア発表のおかげもあり、analyticaが業界ナンバーワンであること、そして、それゆえ産業研究のイノベーションを支える重要な原動力になっていると証明した」。

また、analytica技術顧問委員会会長でありドイツOlympus社社長であるジークベルト・ホルテミュラー氏は、業界トップとしての同見本市の性質を再確認し、「業界は、世界に向けたイノベーション発表の場、そして開発の現況を語る場としてanalyticaを必要としている」と話した。

見本市の雰囲気は、暖かい天候と、大盛況のホールとブース、つまり業界が好況であるという明らかな兆しによって喜びに満ちていた。SPECTARIS Trade Association for Analytical, Bio- and Laboratory Technology社長のマティス・クヘイダ氏は、「業界にとって主な成長機会は、複雑化しつつある規制要件やネットワーク、実験室プロセスやサンプル準備の自動化にあると考える。特に食の安全など、業界におけるグローバル化が進んでいるため尚更だ」。

業界の成長は、体外診断薬など、最近のヘルスケア分野の発展によるところも大きい。事業者団体は、2016年のドイツ産業の国内販売高について、6.5%増となる約37億5千ユーロに上昇すると見込んでいる。

国外来場者の割合が史上最高に

およそ35,000人(そのうち4割がドイツ国外から訪れた)が、analytica 2016に来場した。来場者の多い国は順に、オーストリア、スイス、イタリア、英国、米国だ。また、来場者数にかなりの増加がみられたのは、英国、イラン、タイ、トルコなどの国々だ。

市場調査機関TNSインフラテストによる調査によると、来場者は見本市の結果に非常に満足しているとのことだ。来場者の99%が同見本市を「良い～非常に良い」と評価し、60%がanalyticaの重要性が高まっていると感じると回答した。

40か国から計1,244社がanalyticaに参加した。この数字は、2014年の1,168人から6.5%増加し、過去最高となる。中でも、この成長は、4%から合計44%の割合まで国外出展社の増加によるものだ。出展社の多い国はドイツを除き、中国、米国、英国であった。



analyticaカンファレンスは満席

見本市の科学的な見どころは、3日間のanalyticaカンファレンスだ。ICM(ミュンヘン・インターナショナル・カンファレンス・センター)の会議室は、合計1,839人の来場者(2014年の1,638人から12%増)で満員となった。ドイツ体育大学ケルンのマリオン・テービス教授は、「analyticaカンファレンスは、非常に重要な会議だ。この会議のおかげで、国際交流が促進され、我々の研究にとって重要な分析機器メーカーに会うことができる。結局のところ、我々が現代的かつ妥当な試験方法を提供してもらえるかどうかは、この分野の進展にかかっている」と話した。

世界中で他に類を見ない見本市

analytica の「ライブ・ラボ」や、「労働安全衛生」、「職場における安全」についての特別ショーは、今年の見本市で成功しきりであった。席は全て埋まり、「立見席のみ」となった。ハンブルク食品化学学校校長であり、食品分析のライブ・ラボの司会者であるマルクス・フィッシャー教授は、「メーカーと検査の専門家が、見本市でその場の状況で課題や可能な解決策を話し合うことができるという機会は理想的であり、他に類を見ない」と話した。また、asecos 社社長であり株主のギュンター・ロスドイチャー氏はこのように続ける。「労働安全衛生と、職場の安全のテーマにおける当社のプレゼンテーションは、来場者の間で大きな注目を集めた。当社は analytica 2018 の出展も考えているが、その際再び多くの来場者を惹きつけるには、労働安全のどの面を発表すべきかについても考えている」。



その他、analytica 2016 参加者の声は、analytica ウェブサイトの「プレス」にて記事を読むことができる。写真また資料は、メディアデータベースから入手可能だ。

次回の analytica は、2018 年 4 月 10 日から 13 日にかけて、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。



FKM(見本市統計自主管理協会)が確認した最終的な来場者と出展社の統計は、数か月後に AUMA 見本市データベース(www.auma.de)からオンラインにて閲覧可能となる。

Global analytica Network

「analytica China 2016」

2016 年 10 月 10 日～12 日 於:上海新国際見本市会場、中国
www.analyticachina.com (英語 / 中国語)

「analytica Anacon India & India Lab Expo 2016」

2016 年 10 月 20 日(木)～22 日(土) 於:ハイテックスエキシビジョンセンター、インド
www.analyticaindia.com (英語)

「analytica Vietnam 2017」

2017 年 3 月 29 日～31 日 於:ハノイ、ベトナム
www.analyticavietnam.com (英語)

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)